

## 新年のご挨拶



一般社団法人 日本伸銅協会  
会長 小林 敬一

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、まずは、大阪万博の大成功を掲げさせていただきました。また世界に目を向けますとウクライナ情勢やパレスチナ地区での紛争など、地政学的な不安定さが続いたことから、エネルギー・原材料価格の高止まりや物価上昇が長引き、成長も緩やかにとどまるなど、依然として厳しい経済環境に置かれた一年でございました。

そういう状況ではありますが、2025年の世界景気は、欧州製造業は低位横ばい、中国の景気低迷に歯止めがかかり、米国景気は昨年1月の第二次トランプ政権発足後も底堅く推移しています。

また、国内においては、物価高や人手不足、住宅着工の低迷といったさまざまなお困りごとにさらされました。そのような中、製造業においては日米のデータセンター需要やAI関連の成長、日系自動車の立ち上がりに加えBattery EVからHybrid EVへの回帰、Windows11需要や新型ゲーム機、スマートフォン買換え需要が追い風となり、回復を感じる年でありました。

一方、サービス業においては、先程述べました大阪万博のお客様も含め、過去最高の訪日客によるインバウンド消費の拡大や旅行・外食・スポーツ観戦などの「事（コト）消費」も活況に転じました。しかしながら、それら人の動きに続く「物（モノ）消費」は価格上昇のため数量ベースでは期待通り

に進まず、底は打ったものの回復が見えてこないもどかしい年でもありました。

このような状況の中、2025年暦年の伸銅品生産は、好調な品種に牽引され2024年の64万トンを上回り66万トン程度となる見通しです。

そして、2026年については、「板条製品」は需要が更に拡大し、「銅管」については、中国系メーカーなどからの輸入拡大の懸念はあるものの、引き続きルームエアコンの需要拡大と商業施設などにおけるパッケージエアコンの据え付け需要が期待されます。「黄銅棒」については、建設現場での人手不足や住宅着工件数の問題は引き続きあるものの、サプライチェーン上の在庫は正常化に近づき、リフォーム需要などに支えられ、現状よりも若干の回復を期待しているところです。

日本伸銅協会が昨年秋にまとめました中期需要見通しにおいては、まだ力強さに欠ける国内外の景気など不安要素は残っております。加えて215万円/トンと過去にない水準となった銅価も大きな懸念ではあります。しかし銅の特性を活かした高機能高性能の分野、特に先端技術には日本の伸銅品が必要不可欠であり、今後の世界的なデジタル化、脱炭素化は日本の技術力が大いに貢献することから、「伸銅品全体」は全世界の製造業全体と連動して緩やかに成長すると予想しております。

こうした予測を確実なものとしていくためには、私たちが直面する多くの課題を個社の力だけでなく、お互いが協力し合うことで乗り越えていくことが大切であると強く認識しております。よって、昨年5月、日本伸銅協会会长の就任挨拶で、「伸銅協会のチーム力の強化」という方針を掲げました。

伸銅業に限らず、50年を超える古い設備を多く抱え、労働者の高齢化が進む状況は日本の多くの製造現場で見られることですが、我々は「チーム力」でこれを解決すべく、例えば、各社の設備保全力を高めるための「補修部品情報共有制度」の設立や挟まれ・巻き込まれ事故撲滅に向けた労働災害防止活動の活性化への取組強化を行っております。

また、未利用の銅リサイクル資源の活用に向けた技術開発や会員がGX（グリーントランسفォーメーション）に取組みやすいよう、伸銅協会として、リサイクル率の計算方法やカーボンフットプリント算定ガイドラインの作

成などにも取り組んでおります。

そして、今年から施行された「中小受託取引適正化法（いわゆる取適法）」を含め、「取引適正化」に協会をあげてしっかりと対応して参ります。

流通業界及びリサイクル業界を始めとする業界関係者の皆様とも、大きなチームを組ませていただきしておりますが、このチーム力を一層強化することで、例えば、顕在化してきた物流問題への対応やリサイクル材を含む国内銅資源の一層有益な利用に向けた取組みにご協力を賜れればと強く思っているところでございます。

そしてこれらに経済産業省を始めとする関係官庁のご支援が必要なことは言うまでもありません。

引き続き皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。

今年の干支は「火の午（ひのうま）」です。午（うま）は活力・前進・挑戦・スピード感を象徴するとされますので、これを我々の抱負に絡めて表現すると、「火のごとく情熱をもって前進し、伸銅業界全体の革新と持続可能な成長を推進する」となるでしょうか。古来より馬は農耕でも戦でもパートナー、まさにチーム力の結集の象徴です。

その午年に、皆様とのチーム力を向上し、業界内の諸課題に確実に対応し、全体として競争力と信頼性を高め、しっかりととした勝ち筋作りを進めて参りたいと考えています。

最後になりましたが、皆様方の、本年のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。